

7
2019

教材
教具の

Jkk NEWS

jkkcoop.net



特集

共に生きる社会を考える

(公財)日本障がい者スポーツ協会常務理事 日本パラリンピック委員会副委員長
高橋 秀文

JKK理事長就任のご挨拶

JKKのご案内

学校での突然死ゼロを目指して



全日本学校教材教具協同組合（J K K） 理事長就任のご挨拶

小林 広樹



前理事長からエールを受け取る小林

全日本学校教材教具協同組合とは

東京都が、世界初の1000万人都市となった1962年（昭和37年）、私も「全日本学校教材教具協同組合（J K K）」は発足しました。発足当時の日本は実質平均経済成長率10%の高度経済成長期、GDPは1966年にフランスを、1967年にイギリス、そして1968年には当時の西ドイツを抜き去りアメリカに次ぐ世界第二位の経済大国へと成長を遂げました。それに比例するように、人口増加率も4〜5%と未だがりらのピラミッド形を形成し、義務教育の小中学校数は現在の約3万校より9000校以上多く存在していました。

50社を超えました。日本のものづくり企業や、学校・各教育委員会に直接御用聞きできる地元企業などで構成され、先生方の日々の授業をサポートする機能を担っています。

官公需適格組合とは

私もJ K Kは、経済産業大臣より教材業界で唯一の官公需適格組合の認可を受け活動をしています。これは、官公庁の予算を適正に執行するにあたり、十分な責任を持って納入からその後のサポートまで一貫して執り行え、かつ経営基盤が整備されていると認められた組合のことです。

教材開発に必要なのは「現場の先生の声」

東京オリソニック・パラソニックが開催される2020年、戦後9度目の改訂を迎える学習指導要領が小学校から実施され、「主体的・対話的で深い学び」の導入に

小林 広樹 Hiroki Kobayashi

日本のモノづくりを通じて、学校教材や保健室用品などの企画・開発、流通を担う(株)三和製作所の代表取締役社長。



より新しい授業の進め方が展開されていきます。個々の発達段階に応じて改善を繰り返していく教育の在り方に、どう対応していけるのか？ 様々な教育的課題が次なる教材・教具の開発の種であり、日々子ども達に接する「現場の先生の声」こそが今なによりも必要なのです。

「オリパラ教育・特別支援教育・防災教育」

3つの重点事業

毎年行われるJKKの大きなイベントのひとつ「JKK夏期研修会」では、官民含め志のある様々な業界のリーダーの方々に見学をご教授いただく講演を開催しています。

その中でパラリンピック委員会の方からご講演いただいたお話です。「日本は戦後目覚ましい経済発展を遂げました。立派な家も、車も、お好みの家具・家電も十分に揃い、この上なく便利に生活ができるようになりました。そのうえ趣味に捧げるだけのお金も稼いでこられます。豪華絢爛けんらんでなかったとしても、もう十分に発展を遂げてきたはずですよ。ではこれから、高貴で成熟された国家となるためには何が必要なのでしょう？」「このような問いからスピー

チがスタートされたように記憶しています。そして続くのは、障がい者の方々に対し偏見のない社会基盤の形成にもっと目を向けてもいい時であるという投げかけでした。そのために子どもたちにパラリンピックスポーツを体験し、その面白さや奥深さを知るだけではなく、共生社会の形成に向けた「きっかけづくり」に取り組みうというお話でした。

一例ですが、JKKで開発をしたパラリンピックスポーツ「ボッチャ」のボールセットが、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会様より採択され、全国各市の教育委員会に寄贈されました。これらをきっかけにボッチャ体験会を開催するなど、子どもはユニバーサルスポーツの普及にも努めております。

限られた教育予算の中で、学校のニーズに合致し、必要とされる「教材・教具」を開発、流通していくことが常に求められています。開発とは機械や装置をつくり出すことだけではありません。当組合では、子ども達が興味を抱き関心を寄せるコンテンツの制作などにも取り組んでいます。

また発達段階に応じた教材・教具が必要とされる「特別支援教育」においては、学び

や自立を支援し、一人一人の個性に寄り添った教材を目指して数多くの製品をご紹介します。

さらに「防災・防犯用品」にも注力し、災害大国ニッポンにおいて、日頃から防災意識を高め、災害のメカニズムなど子ども達が学べる教材・教具の開発にも力を入れています。

JKK組合活動トピックス

保健室用品の充実

JKKでは「子ども達の健康を守る」をテーマに保健室用品の在り方も調査・研究しております。応急手当や健康診断、保健指導はもちろん、時代の変化と共に心のケアなど新たな課題にも対応していかなければなりません。理想的な保健室の在り方を考え、ご提案を続けて参ります。

これからの「教材・教具」はどのようなべきか？ 子どもたちの明るい未来のために、教材開発に力を注ぎ、全国の学校現場まで有益な情報をお伝えして普及活動をしていく所存でございます。

共に生きる社会を考える

パラリンピック教材「I'mPOSSIBLE（アーム・ポッシブル）」



高橋 秀文 Hidefumi Takahashi

(公財)日本障がい者スポーツ協会常務理事、同協会日本パラリンピック委員会副委員長。東京2020パラリンピック大会会場を観客で満杯にすることを目指しファン作りに奔走している。

かねてより、パラリンピックをテーマにした授業を学校で取り入れたいという要望があったのですが、それは選手など「特別な人」による講演や体験会でなければ行えないと考えられていました。更に障がいのある選手をテーマとした際、どのように説明すべきか戸惑うという先生方の声も伺いました。このような現場の状況に対応するため、国際パラリンピック委員会が発した教材を国内の教育現場で使いやすいように編集し直したのが、日本版の「I'mPOSSIBLE(アーム・ポッシブル)」です。パラリンピックのことをあまりご存じなく、しかも準備の時間が確保できない先生方でも、負担なく自分で授業ができるように、授業案のほか、授業用のスライドとその解説や声かけ例を記載したガイド、児童・生徒が書き込んで使用できるプリント、また実技授業の準備用の映像などをセットにしました。実技5授業を含む全14

授業分を作成しており(中高生版の一部は2020年春発表予定)、各授業は単独でも組み合わせても、どの順番で使用していただいてもよい構成で、2017年春より毎年、私立を含む国内すべての小中学校、特別支援学校、教育委員会等に無料でお届けしています。

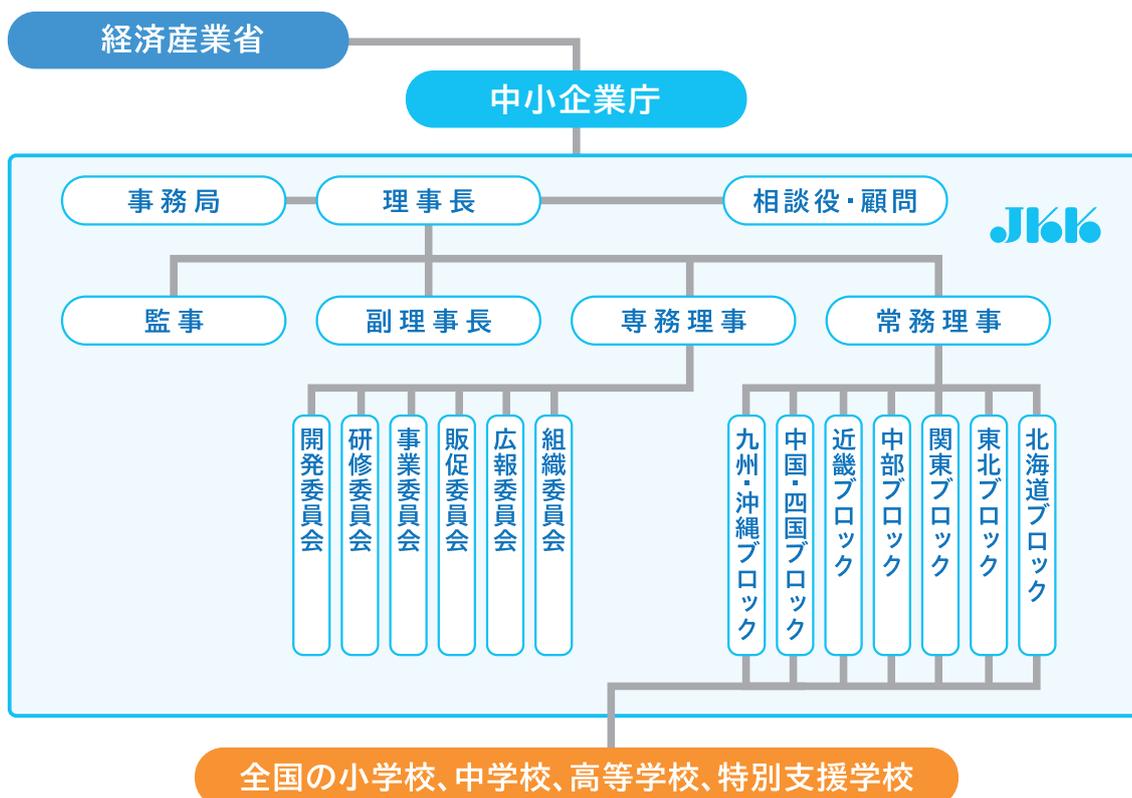
この教材では、パラリンピックの歴史や競技を学んだり実際に体験したりして、東京2020大会に向けての興味を深めることはもちろん、選手のストーリーを通じて、彼らが勇気や強い意思を持って困難に立ち向かう様子を、児童・生徒が自分自身を振り返りながら学習することもできます。加えてこの教材の最もユニークな点は、障がいを補つための規則や用具の様々ななかたちで見られる『できないと思えたこと』を『できる』に変える工夫が、「共に生きる社会を考えるプロセスの導入として位置づけられていることです。ク

イズやグループワークを用いたアクティブラーニングを通じ、児童・生徒が楽しみながらこの「工夫」について考え、「アスリートが輝けるための工夫」を「すべての人が輝けるための工夫」と考えることで、「共に生きる社会」を作っていく際に必要となる考え方の基本を自然と学べるようになっていきます。

『I'mpossible(不可能)』を『I'mpossible(できる)』に変えるのは、『「小さな工夫」というメッセージがこの教材には込められています。全国の教室で、この「」について考えていただけることを願っております。



JKK 組織図



官公需適格組合とは

昭和42年に「中小企業者に関する国等の契約の方針」において閣議決定された制度で、官公需の受注に対し意欲的であり、かつ受注した案件は、充分に責任をもって納入できる経営基盤が整備されている組合であることを中小企業庁（経済産業局および沖縄総合事務局）が証明する制度のことです。



1. 出前授業プロジェクト



2. エリアブロック会の運営



3. 重点商品の販売強化



4. 夏期研修会



5. 若手の集い



6. カタログ勉強会



7. JKK ニュースの発行

全国の小・中学校、高等学校、特別支援学校に向けて様々な取り組みを行っています。

JKKの取り組み

J K K 役員紹介

2019
・
2020

58
期
・
59
期



理事長 小林 広樹

法人名 (株)三和製作所

住所 〒132-0021 東京都江戸川区中央4-11-8
TEL 03-56007-7811 FAX 03-56007-7812

この度、全日本学校教材教員協同組合(JKK)の総代会において、10代目の理事長を拜命いたしました小林広樹でございます。JKKの冠である官公需適格組合を理解し、組合創設の思いや志を引継ぎ、求められる教材・教具とは何か?子ども達に今できることは何か?を考え、授業を行う先生方のサポートとしてしっかりと機能して参りたいと存じます。

日本は、令和時代の誕生を迎え、さらに来年は学習指導要領の改訂、東京オリンピック・パラリンピックの開催と大きな節目を迎えます。

いつ頃では、少子化が進み、教材・教具の機能や性質にも変化が求められる時代が来ています。電子黒板やタブレットなどICT化の波は益々加速し、先駆的であったそれらが慣例となるのも間近と思われる。

教材の開発・普及をする当組合の役割を先生方に「理解いただき、日々の授業で必要とされる教材やお困り事などをヒアリングし、教材・教具づくりに励んでいく所存です。

JKK理事長として、私の使命は3つあります。

1つ目は、子ども達の育成と学校教育発展への貢献。先生方が授業で使いやすい、より質の高い教材・教具を開発・流通していくことです。立場は違えども先生方と同じ気持ち、目線で、「よかった!」できた!」を応援し、成長を見守ることが、私もJKKの存在意義であると存じます。

2つ目は、組合員であることの「付加価値の創出」。「JKKだからできること」を模索し、授業がわかりやすく、充実したものとなるよう、製品やサービスの付加価値を生み出せる組織であることが大切です。そのためには、日々学校現場に向き、先生から求められる教材・教具を供給し信頼される存在でありたいと存じます。

3つ目は、「教材業界の担い手の育成。教材・教具は子ども達の学びのために必要不可欠なものです。教材業界の次世代を担うメンバーの育成は必須であり、子ども達の成長に大きく関与してくるものです。業界の発展は、若手の育成こそが鍵を握るものと考えます。

組合員の皆さま、また当組合の活動にご支援を頂戴している皆さまと力を合わせて、未来を担う子ども達に今できることを真摯に進めていく所存です。

そして自分たちの「教材・教具」に関わる仕事に対し志を持ち、誇りをもった「志事」となるように、皆さまと協力しながら組合のさらなる発展を目指して尽力して参りたいと存じます。



副理事長 鈴木 盛一郎

法人名 (株)鈴盛商会

住所 〒112-0001 東京都文京区白山5-19-10
TEL 03-33946-9631 FAX 03-33946-6773

令和元年がスタートしました。JKKも今年から新体制になり、飛躍の年にしたいと思っております。

今年度、私は副理事長という重責を仰せつかりました。小林新理事長のもと、しっかりとサポートをしていく補佐役に徹したいと思っております。また、新体制では各委員会活動が活発になりますので、理事の皆さんと協力して、組合員の皆さまにも積極的に組合の活動に参加いただき、日本を代表する学校教材教具市場の活性化を図っていきたく思います。

そのための具体的なJKK未来プランを、小林理事長を中心に提示していきますのでご期待ください。組合員の皆さまとは、8月の夏期研修会でお会いできるのを楽しみにしています。

(※)今年度の夏期研修会は、装いも新たに大きく生まれ変わる予定です。(



副理事長 清水 隆一

法人名 (株)清水博英堂

住所 〒371-0015 群馬県前橋市三河町1-11-6
TEL 027-1224-6789 FAX 027-1224-2861

引続き副理事長としてお世話になります、清水博英堂の清水隆一と申します。JKKには、青年部の頃から理事の仲間に入れていただき、気がつけばもう完全に年長組になっていました。

年号も変わった今年度、諸先輩方から頂戴した教えを忘れずに、さらに新しい考えや事柄を取り入れて、新理事長の補佐に励んでいきたいと思っております。

私事ではありますが趣味は幅広く、バイク、トライアスロン、神輿、木工、植木、らんちゅうなど、興味のあることが多すぎるくらいです。生まれ変わった「腰の低い職人」になりたいなどと思いつつ、この好奇心をJKKを盛り上げていくことにも繋げていければと考えております。

皆さまのお力をいただきながら、今後も必要とされるJKKを目指して頑張って参りますのでよろしくお願いたします。



専務理事 宮村 邦章

法人名 (株)ミヤマムラ
住所 〒427-0113 静岡県島田市湯田28-1
TEL 0547-1381-0259 FAX 0547-1381-3709

総代会で大きな役員改正があり、Jkkにとっても今年度が新時代であり、元年の年であると思います。新体制になった今ブロック会・夏期研修会・若手研修会を更に強化し、また、オリジナル商品の開発や理事長が掲げるJkk未来プラン、事業活性化の仕組み作り、そして次世代を育む「絆」組合へのプラン、これらを一年一年やり遂げていき、学校教材販売に対しての「誇り」や「夢」を持つことで我々の未来も拓げていくのではと思います。学校教材販売店のあり方が試されるこの時代、皆さんと協力し合い、より良いJkkを築いていきたいと思っています。



専務理事 西村 忠生

法人名 (株)西村教材
住所 〒522-0007 滋賀県彦根市古沢町71-52
TEL 0749-1221-2137 FAX 0749-1261-2953

少子化・教育予算の縮小など、業界を取り巻く環境は大きく変わってきていますが、学校が必要とされる存在である限り、教材の役割が薄れることはないでしょう。ダーウィンの進化論の有名な一節に「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である」という言葉があります。この度、小林理事長という、バイタリティ溢れるリーダーを迎え、Jkkという組織も大きく変わっていくこととなります。新たな時代のJkkを、どうぞよろしくお願い致します。



専務理事 事務局長 渋谷 誠

法人名 (株)三和製作所
住所 〒132-0021 東京都江戸川区中央4-11-8
TEL 03-5607-7811 FAX 03-5607-7812

長年にわたり事務局を支えていただいた神山前理事長の意思を受け継ぎつつ、新理事長が掲げるJkk未来プランを実現するために、事務局からの情報配信、夏期研修会や若手の集い「ブロック会の活性化、組合活動における実務、また、組合員の皆さまが学校とより良い関係を築く環境づくりなど、事務局機能の充実を図ってまいります。
事務局への積極的なご意見、ご要望をいただき、皆様と共にJkk組織をつくり上げていきたいと思っております。



常務理事(北海道ブロック長) 二橋 宣由

法人名 (株)北海教材社
住所 〒065-0022 北海道札幌市東区北22条東1-13-5
TEL 011-1723-4545 FAX 011-1723-6389

小林新理事長のもとJkkがさらに発展できるようにお手伝いさせていただきます。



常務理事(東北ブロック長) 田中 政徹

法人名 (株)高木学習社
住所 〒036-8057 青森県弘前市大字馬屋町9-9
TEL 0172-134-7702 FAX 0172-135-5424

Jkk会員の力になれるよう尽力させていただきます。よろしくお願いたします。



常務理事(関東ブロック長) 榎木 賢一

法人名 (株)榎木上川
住所 〒203-0042 東京都東久留米市八幡町3-11-18
TEL 042-1475-7300 FAX 042-1475-1722

ますます拡大するJkkの役割と活動その情報発信をしっかりとて参ります。



常務理事(中部ブロック長) 滝沢 克巳

法人名 (株)二重学販
住所 〒514-0806 三重県津市上井町17-17
TEL 059-1227-5101 FAX 059-1225-6217

新体制となったJkkの今後の活動に、微力ですが積極的に協力したいと思っています。



常務理事(近畿ブロック長) 井沢 隆史

法人名 (株)イザワ文教社
住所 〒553-0002 大阪府大阪市福島区鷺洲5-9-1
TEL 06-6131-8300 FAX 06-6131-8310

全国の個々の力を最終させ、Jkkと教材業界を盛り上げていきたいと考えています。



常務理事(中国・四国ブロック長) 汲田 匡哉

法人名 (株)学文社
住所 〒723-0051 広島県三原市宮浦5-6-4
TEL 084-812-2783 FAX 084-812-2664

Jkk発展の為に微力ながら貢献できるように頑張ります。よろしくお願いたします。



常務理事(九州・沖縄ブロック長) 松本 洋

法人名 (株)秀研社
住所 〒803-0842 福岡県北九州市小倉北区泉台1-16-24
TEL 093-1651-2121 FAX 093-1651-9946

小林新理事長体制のもと、Jkkの発展のために務めさせていただきます。

学校での突然死ゼロを目指して



年間7万人もの尊い命が心臓突然死により奪われ、その数は交通事故死の16倍を超えます。

突然の心停止から命を救うための「AED」は、医療従事者でなくても誰もが使えるようになり、学校での設置率はほぼ100%となりました。これからの課題は子どもたちへの教育ではないでしょうか。

中学・高等学校では、すでに心肺蘇生教育の実施が学習指導要領に組み込まれており、いざという時にパニックを起こさず手順を理解するための訓練など、心肺蘇生法を学ぶ機会が設けられています。

学校での突然死ゼロを目指し、今後は児童期においてもAEDの使い方や、心臓マッサージなど救命について体験することで、「命の大切さ」を子ども達に伝えていく必要があると考えられます。

当組合では、学校や教育委員会と連携を深め「救命教育」の事前授業を展開しています。

現状ではこのように外部講師や、消防隊員によって行われている救命教育ですが、先生方からは「子ども達に、どのような手順で教えたらいいか知りたい」という声も寄せられています。いずれは救命教育の授業を先生方が手軽に行えるような「標準化された教材」の必要性が高まることを踏まえ、教材の開発も着々と進めています。

JKKブロック会開催

2月9日(土)に中部ブロックと近畿ブロック、2月16日(土)東北ブロックと九州・沖縄ブロック、2月23日(土)関東ブロック、3月2日(土)中国・四国ブロックでブロック会、および「スクラボ4号」勉強会を開催しました。

勉強会では教材・教員カタログ「スクラボ」の おすすめの商品のご説明、並びに特別支援カタログの活用先としての販売事例、防災用品の販売事例をご紹介させていただきました。また JKK組合員が独占販売できる商品として、2020東京オリンピック・パラリンピックのマスコットである「ミライトワ」「ソメイティ」のぬいぐるみ販売のご説明。さらに教科横断型の教材として、主体的・対話的な学びにつなげる小型インタラクティブ地球儀「SPHERE(スフィア)」を使ったデモ授業をし、「営業同行は可能か?」「デモ機はあるのか?」等々、販売に向けての積極的な意見交換がされ、有意義なブロック会、カタログ勉強会となりました。引き続き、皆様のご意見を参考に、より良い製品・カタログ作りに取り組んで参ります。

ご参加いただいた組合員の皆様、ありがとうございました。



中部ブロック会
2019年2月9日(土)



近畿ブロック会
2019年2月9日(土)



東北ブロック会
2019年2月16日(土)



九州・沖縄ブロック会
2019年2月16日(土)



関東ブロック会
2019年2月23日(土)



中国・四国ブロック会
2019年3月2日(土)

